資料4-2

少年鑑別所在所者に対するヤングケアラーに関する調査について

研究代表者　東山　哲也（函館少年鑑別支所）

※　日本犯罪心理学会第６１回大会ポスター発表資料

※　定義・イラストはこども家庭庁ＨＰより
（https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer/）

ヤングケアラーとは

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものこと※

背景

・ヤングケアラーの問題
　家事や家族の世話等→学習や遊び等，子供らしく生きることを犠牲に→様々な困難の発生
・家族の世話をしている子供の実態
　小学６年：6.5%，中学２年：5.7%，全日制高校２年：4.1%
（R2実施ヤングケアラーの実態に関する調査研究：以下「全国調査」）
・全国・地域の取組
　実情調査や支援体制構築→社会的関心の高まり

⇔少年司法領域では？
　実務感覚：ヤングケアラー的側面のある非行少年が一定数。
　→ヤングケアラーとしての生い立ちの振り返り
　→非行化の機制・立ち直りの観点で意義大
⇔全体的な傾向の把握，統計的検討等はなされていない。

目的：非行少年におけるヤングケアラーの実情や特徴の解明

方法

北海道，関東，関西地域の七つの少年鑑別所の被観護在所者のうち，調査協力に同意し，令和５年６月～７月の間に回答した者105名（男子88名，女子17名，平均年齢16.8歳（SD=1.63））に対し，全国調査及び各地域で実施されている調査に準じた調査票を自己報告式で実施。

結果①

〇家族のケアの状況：全国調査と比較して高割合
　現にしている15.2%，過去の経験を含むと21.0%が家族をケア
〇ケア経験者の状況（全国全日制高校２年生と比較。括弧内は同割合。）
　・対象：兄弟姉妹59.0%，母50.0%（きょうだい44.3%，父母29.6%）。

表1　ケア経験の有無

		いる	現在はいないが過去にいた	現在も過去もいない	合計
性別	男	12 13.6%	4 4.5%	72 81.8%	88
	女	4 23.5%	2 11.8%	11 64.7%	17
職業・学校	有職	7 22.6%	1 3.2%	23 74.2%	31
	無職（非学	5 19.2%	3 11.5%	18 69.2%	26
	中学生	2 14.3%	0 0.0%	12 85.7%	14
	高校生（全日）	1 7.7%	1 7.7%	11 84.6%	13
	高校生（定時）	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2
	高校生（通信）	1 5.9%	1 5.9%	15 88.2%	17
	大学・短大・高専生	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1
	その他	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1
合計		16 15.2%	6 5.7%	83 79.0%	105

表2　ケアの対象者・理由・内容

		父	母	祖父	祖母	兄弟	その他	合計
世話あり		5	11	3	1	13	2	35
世話理由	高齢	0	0	2	1	0	0	3
	幼い	0	0	0	0	10	1	11
	要介護	0	0	1	0	0	0	1
	認知症	0	0	1	0	0	0	1
	身体障害	0	0	0	0	0	0	0
	知的障害	0	0	0	0	0	0	0
	発達障害	0	0	0	0	4	0	4
	精神疾患	0	4	0	0	0	0	4
	依存症	0	3	1	0	0	1	5
	その他	2	3	1	0	0	0	6
世話内容	家事	3	7	1	0	6	0	17
	兄弟姉妹の世話	0	1	0	0	9	1	11
	身体的介護	0	0	2	0	2	0	4
	外出付き添い	2	2	0	0	1	0	5
	通院付き添い	1	2	1	0	0	1	5
	感情サポート	2	7	2	0	8	1	20
	見守り	2	3	1	0	7	0	13
	通訳	0	0	0	0	0	0	0
	金銭管理	1	2	0	0	0	0	3
	服薬管理	0	2	0	0	0	0	2
	家計を助ける	3	9	0	1	2	0	15
	その他	0	0	0	0	0	1	1

※　一人で複数の家族の世話をしている場合があるため、合計が22を上回ることがある。
※　世話の理由や内容については複数回答であるほか、無回答もあり、合計数は一致しない。

＜兄弟姉妹のケア＞
・理由：幼い77.0%，発達障害30.8%（幼い70.6%，精神疾患・依存症1.5%）
・内容：兄弟姉妹の世話69.2%，感情面のサポート61.5%，見守り53.8%，家事46.2%（家事56.6%，見守り53.7%，世話43.4%）。

＜母親のケア＞
・理由：精神疾患36.4%，依存症27.3%，その他（多忙，自傷行為等）27.3%（その他17.6%，精神疾患・依存症14.3%）
・内容：家計を助ける81.8%，家事63.6%，感情面のサポート63.6%（家事68.1%，外出付き添い26.4%，感情面のサポート17.6%）

考察①

・対象：全国調査とおおむね同傾向（非行少年は全体に，母子家庭，年少の異父弟妹のいるステップファミリーが多い分，兄弟姉妹，母の割合がやや高いと考えられる。）
・理由：非行少年は精神疾患や依存症，発達障害等の割合が高い。
　→高齢や身体障害等と比較して外部から見えにくい。恥等の感情が働いて相談しづらい
・内容：家計を支える，感情面のサポート等の割合が高い。
　→家事や介護と比較してケアであることの認識が働きづらい。
　有職者（学生でも職ありの者が多い）にとっては，働いて家計を支えることを自他から当然視されやすい。
⇒自他ともに気づきにくく，つらくても支援を求めにくい者が多い可能性。ヤングケアラーは一般に支援につながりにくいとの指摘あるが，非行少年は特にこの点に留意が必要と考えられる。

結果②

＜非行少年において特徴的な回答が見られた項目＞
①ケアを一緒にしている人：自分のみ36.4%（11.4%）
②世話の頻度：ほぼ毎日57.1%（47.6%）
③平日に世話に費やす時間：3～7時間未満55.0%（24.4%，全国最多は3時間未満35.8%）
　※休日は3時間以上が84.2%（北海道調査24.2%）
④世話をしているためにやりたいけれどできていないこと：学校や仕事に行きたいけれど行けない13.6%（1.0%），学校・仕事を遅刻・早退してしまう18.2%（2.9%），進路の変更を考えざるを得ない・進路を変更した9.1%（5.5%），自分の自由になる時間が取れない27.3%（16.6%），特にない40.9%（52.1%）
⑤世話に対する思い：精神的につらい31.8%（19.9%），やりがい31.8%（北海道調査15.7%）
⑥世話について相談した経験：なし95.5%（64.2%）
⑦⑥の理由：誰かに相談するほどの悩みではない54.5%（65.0%），相談しても状況が変わるとは思わない31.8%（22.8%），相談できる人が身近にいない18.2%（9.1%），家族のことを知られたくない18.2%（9.1%）
⑧学校や周りの大人に助けてほしいこと，必要な支援：進路等の相談27.3%（17.3%），学習等の支援18.2%（18.9%），同じ境遇の人と話したい13.6%（大阪府調査R4：2.6%，R3：7.4%）
⑨自身がヤングケアラーに当てはまる：全体9.7%，ケア経験あり45.5%（全体2.3%，ケアあり15.0%）
⑩ヤングケアラーの認知度（全体）：内容を知っている8.7%（5.7%），聞いたことはあるが内容はよく知らない12.6%（6.9%），聞いたことがない78.6%（86.8%）

考察②

全国や地域の調査の比較
・より困難又は支援の乏しい状況でケアをしている可能性
・その中で疲弊や不満を感じている可能性
・進路等の相談，自助グループ的な関わりなど特有の援助ニーズがある可能性
・ケアにやりがいを感じている者がいることに要配慮（①支援の押しつけや「かわいそう」と見ることのリスク，②否認抑圧の可能性や，孤立化し悪循環するおそれ，両面への配慮）

今後の課題

サンプル数の制約が大きいところ，今後サンプル数を増やした上で，性格特性等の要因も含めて分析・検討することが今後の課題。